

西部労福協第48回定期総会開催される 今後2年間島根県が担当



総会全景

西部労福協は、第48回定期総会を2018年2月15日（木）、松江市「ホテル白鳥」において開催しました。総会冒頭、議長に錦織代議員（島根県労福協・連合島根副事務局長）を選出しました。総会は、島根県商工労働部安井部長、松江市松浦市長、連合島根仲田会長をはじめ中央労福協花井事務局長等7人の来賓、西部労福協役員、各県代議員、傍聴者等総勢77人が参加しました。



西部労福協
弓立会長



中央労福協
花井事務局長

西部労福協弓立会長（愛媛県労福協理事長）は主催者を代表し、「この一年間、中央労福協と連携し地域における勤労者福祉運動の前進に努め、自治体・NPO・市民団体等との協力の維持拡大を行ってきた。日本社会は人口減少により成熟社会に向かっており社会全体が老化し始めているといってもよい。今日好景気モードと言われているが、テクニカルな金融政策で作っているものであり、私たちが望む自立的な経済成長ではない。」また、「医療・年金・介護は将来の大きな社会不安の要因であり、社会福祉が崩壊していく時代の到来にあたっては、超格差社会がますます進み、私たちが進めてきた自主福祉運動のセーフティネットの強化を果たすという事業はますます重要となる。包摂的な社会を後世にバトンタッチしたい。ユネスコの無形文化遺産に登録され、高い評価を受けた協同組合の思想と実践こそが、歪んでいく社会を支える唯一の運動ではないかと考える。私たちの地道な活動がそれぞれの地域で目指している共生の福祉社会の実現に不可欠な活動になって

いることを共通認識に持ちながら2018年度以降も社会的連帯を深める活動を行う。」最後に、2年間幹事を務めた愛媛県労福協への協力にお礼を述べるとともに「本日、記念講演として中国労働金庫島根県営業本部の南木憲治氏より『労働運動とNPO（島根県からの報告）』をお願いしている。」と挨拶を述べました。

その後、来賓の島根県商工労働部安井部長、松江市松浦市長、連合島根仲田会長より「労働者福祉事業への期待と松江市来訪への歓迎」の祝辞が続きました。



島根県商工労働部
安井部長



松江市
松浦市長

中央労福協花井事務局長は、「給付型奨学金の拡充と教育費の負担軽減に今後とも取り組んでいく。」「母子世帯の半数以上が貧困状態にあり、若者の多くは不安定雇用・長時間労働を強いられるなど格差・貧困・社会的分断が進んでいる。加えて奨学金返済の負担から結婚や出産をあきらめてしまうなど、少子化の一因ともなっている。このような中、政府は生活保護費の引き下げを決定した。受給者本人だけでなく多方面に影響が及ぶが、中央労福協は、生活低下の政策であると政府に撤回を要求している。」最後に、「福祉は一つ。共助を実践しているのが労福協であり共助をさらに拡大していかなければならない。中央労福協は来年70周年を迎え、2020年ビジョンの見直しを行う。将来に向かって労働者福祉運動を発展させるビジョンを創り上げたい。」と呼びかけました。

【総会次第】

- 第1号議案 2017年度活動報告
- 第2号議案 2017年度会計決算報告・監査報告
- 第3号議案 2018年度活動方針（案）
- 第4号議案 2018年度予算（案）
- 第5号議案 役員改選について

総会は、すべての議案を西部労福協城石事務局長が報告、提案し、全会一致で承認可決されました。

監査報告は、景山会計監査（島根県労福協）が報告しました。

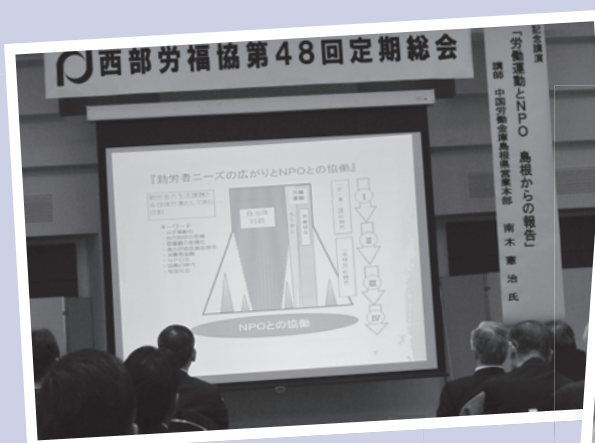
2018～2019年度西部労福協役員（島根県関係のみ）

役職名	氏名	役職
会長	成相善朗	島根県労福協理事長
事務局長	福間三郎	島根県労福協専務理事

【記念講演】

演題「労働運動とNPO『島根県からの報告』」

中国労働金庫島根県営業本部 南木 憲治氏



社会の変化（核家族化・少子高齢化・格差社会等）に伴い、勤労者の生活様式が多様化するとともにニーズがひろがり、そのことが勤労者の生活課題（困りごと）を多く生み出してきた。そうしたニーズや課題に労働運動は応えてきたか。

少子高齢化の日本が抱える問題（介護離職・老老介護・認知介護・社会保障費の増大）に伴って自治体行政や従来の労働運動だけでは解決が図れない諸課題に拡がり、それらの課題に対してNPO等が活動を拡げている。しかし、行政や労働運動、NPOそれぞれ単独での解決は難しく、勤労者の生活課題解決を図るべき労働運動とNPOとの連携が求められている。

この間の労働運動の特徴的なものに、2003年9月にあった「連合評価委員会」の最終報告とそれに続く地域協議会の改革があげられる。これらは、「地域に顔の見える運動」と「新しい協力と連帯の中心に連合が立つ」という方針のもと、地域でNPOとの連携を深めてネットワークを築くことが勤労者の課題解決の一助となり、労働組

合の認知と社会的評価を得ると期待されている。

島根県内（連合島根）の動きとしては、NPOとの関係づくりから始まり、連合地協改革を経てNPO寄付開始、「Re Book」（古本の再利用による障がい者支援）の取り組み開始、連合ボランティア開始等と信頼協力関係を築いている。それは、「中国ろうきんNPO寄付システム」での島根県寄付者が中国管内で突出していることから窺える。

今後は、労働運動として、「中国ろうきんNPO寄付システム」を拡げるために、まず労働組合が組合財政から寄付することと連合ボランティアの拡大と充実に期待したい。

労福協へは、組合員が参加できる労福協運動の再構築と、NPOと労働組合とのコーディネーターの役割発揮を求めたい。

最後に、「地域で活動するNPOとともに地域課題に取り組むことは労働運動の『本業』であり、数は力なり」と力説して講演を終りました。

地区労福協 障子貼り・窓ふきボランティア実施

県労福協では各地区労福協と協力して施設や独居老人を中心とした世帯へ窓ふき・障子貼りのボランティア活動を行っています。この活動は、自らが高齢者になった時、どのようになるかを体験し、自らの立場で考えるとともに高齢社会を考える良い機会にもなります。

安来地区福協

安来地区福協は、11月26日、安来市社会福祉協議会から紹介された独居老人14世帯で窓ふきボランティアを実施しました。「本年度は島根総合福祉専門学校から4名の学生ボランティアの参加がありました。当日は参加者、家人の昼食を持参し出発し、作業内容の要望を聞きながら掃除を行いました。食事後の懇談もかなり盛り上がり、とても和やかなひと時を過ごされたグループが多くありました。」と報告がありました。



江津地区福協

江津地区労福協は、12月17日に市内独居老人3世帯へ訪問し障子貼りボランティアを行いました。

「当日は各単組より参加者を募り30名の参加がありました。訪問したどのお宅でも笑顔で迎えていただき気持ちよく作業ができ皆さん大変喜ばれていました。この障子貼りボランティアを通して独居老人の方が一人で暮らすことがどれほど大変なことなのか解りました。」と報告がありました。



他地区労福協の活動状況

地区名	開催日	名称	地区名	開催日	名称
松江地区	12 / 9	独居老人宅 窓ふきボランティア	邑智地区	9 / 10	特別養護老人ホーム 窓ふきボランティア
雲南地区	12 / 3	「笑寿苑」清掃ボランティア	浜田地区	11 / 25	独居高齢者障子貼りボランティア
出雲地区	3月中旬	JR・一畑電車駅舎清掃 親子ボランティア	隠岐地区	12 / 10	独居老人宅 窓ふきボランティア

「確かな未来」が会社を変える。

中退共 で退職金。
CHU-TAI-KYO

「中退共」は中小企業が加入しやすい
国の退職金制度です。

- ① 国の制度だから安全・安心!
さらに掛金の一部を国が助成します。
- ② 社外積立でラクラク管理!
管理や運用の手間がかかりません。
- ③ 掛金は全額非課税でオトク!
節税に加え、手数料もかかりません。

- パートタイマーさんもご加入いただけます。
- 解散存続厚生年金基金からの移行先の一つです。

詳しくは
ホームページをご覧ください

中退共 検索

<http://chutaikyo.taisyokukin.go.jp/>

独立行政法人勤労者退職金共済機構 中小企業退職金共済事業本部 TEL(03)6907-1234 FAX(03)5955-8211



福祉事業団体利用拡大キャンペーン 実施報告 (ろうきん10月~12月)

中国労働金庫（島根県）のキャンペーン取り組みは①「会員への若年層の利用拡大・新入組合員の取引のルール化提案」、②「家計の見直し運動提案」を各地区労福協、ろうきん部会と協働して実施しました。

地区	若年層		家計見直し	
	計画	実績	計画	実績
松江地区	10	29	24	24
隠岐地区	2	0	6	0
安来地区	2	6	7	8
雲南地区	5	14	5	22
出雲地区	10	16	28	25
大田地区	3	7	2	1
江津地区	2	6	6	13
浜田地区	5	9	12	15
邑智地区	3	0	6	4
益田地区	7	14	14	20
合計	49	101	110	132

①「会員への若年層の利用拡大・新入組合員の取引のルール化」については、計画49会員に対し101会員に提案しました。

地区労福協会長、ろうきん部会長、ろうきん部会3役と事業団体が連携し帯同オルグを実施し、若年層、新入組合員へろうきん運動の理解を深める教宣の実施、新入組合員からろうきん普通預金口座、ライブプランに沿った積立、急な出費に備えるマイプランカードローン契約についてルール化を要請しました。

②会員構成員（組合員）の可処分所得引上げを目的とした家計の見直し運動は、全地区労福協、会員の協力を得て、延べ132会員で家計の見直し運動を展開いただきました。

他金融機関の高金利貸出金、複数契約による返済額の軽減、新たなイベント（車・教育・住宅）に合わせ一本化等の利用で200件を超える家計の見直しを図りました。

引続き年間の取り組みとして会員構成員（組合員）の可処分所得引き上げを目的とした相談活動を展開します。



ZENROSAI

こくみん共済 商品説明会 開催報告

島根県労働者福祉協議会2017「福祉強化月間：福祉事業団体利用拡大キャンペーン」（10月～12月）において、「こくみん共済商品説明会」の開催に取り組んでいただきました。執行委員会、定期大会、職場集会、新入組合員集会等において52回の開催をいただき、1,340名の組合員の方々に「こくみん共済」の商品内容を広めることができました。

同時期に実施の「全労済2017年度こくみん共済推進キャンペーン」では、当初のキャンペーン期間（10月～12月）から更に1ヶ月延長し1月末まで取り組んでいただいた結果、目標277件に対し新規322件のご加入をいただき、達成率は116.2%となりました。

この間の皆さまの多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、年度末（5月末）に向け年間目標達成への引き続きのご支援をお願い申し上げます。

○「こくみん共済」商品説明会開催結果

	開催回数	参加者数	加入件数
安来地区	4回	7人	2件
松江地区	27回	441人	136件
雲南地区	4回	204人	21件
出雲地区	6回	136人	55件
大田地区	4回	114人	7件
邑智地区	5回	12人	7件
江津地区	5回	19人	12件
浜田地区	9回	103人	41件
益田地区	9回	297人	34件
隠岐地区	2回	7人	7件
合計	52回	1,340人	322件



全労済島根推進本部
(島根県労働者共済生活共同組合)